

令和5年度 長野県介護福祉士会 南信支部研修

『コーチング』研修会報告

令和5年度南信支部長 中原理恵

11月26日(日)伊那市いなっせ会議室にて、南信支部企画の研修を開催しました。
講師として、介護福祉士会会員でもあり上伊那医療生活協同組合 老人保健施設はびろの里で
3階療養棟課長として、また認知症介護指導者としてご活躍されている増井茂樹さんをお迎えして
『コーチング』についてご指導をいただきました。

いつも日常は対利用者さんと接しながら仕事をしていることが多いかと思いますが、働く職場内での
人間関係や、立場上 後進の人材育成にあたる中での悩みを抱えているという会員もいます。

今回は主に職場内での対人関係におけるコーチング技術について、座学やグループワークを
含めた実践を教えて頂きました。講師の増井さんからは、この日の獲得目標として

- コーチングの基本を知る。
- コーチングの基本を知り、相手と共に自分を知る。
- コーチングの基本スキルを実践する。

これらを提示され、2時間半にわたりとても楽しく非常に有意義な講義をしていただきました。

コーチングとは“問いを2人(自分と相手)の間に置き、一緒に(探す)探索しながら、相手の
発見を促していくというアプローチ”であるということから、一方向的に相手に対して働きかけたり
相手を指導や変えたりすることではなく、“一緒に”というスタンスで考えていく内容になりました。
参加した方の中では「普段はどちらかと言えばティーチングに近い」といった感想が聞かれたりしました。

スキルを学ぶ段階では、①～⑧、その中でもスキルによってはその1・2・3・・・など詳細に分かれた
テクニックもあり、増井さんが話をするごとに大きな頷きや関心を寄せる場面が見られました。

質問をされた方では、自分は先輩に怒られたりしながら仕事を覚えてきたということもあるが、後輩
職員に指導をする中での悩みも本音を吐露されていました。怒ったりすることは必要だと思うか？
自分はその後の相手との関係を考えると…自分の性格としても怒ることができない、指導が難しい
と話され、どうしたら相手に伝わるのか私自身も考えさせられる事が多くありました。

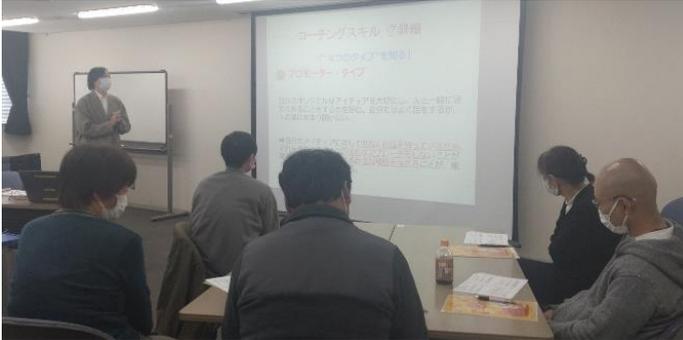
そんな中でこういったコーチングの基本を学ぶ研修ができたことは、参加されたみなさんの今後の
職場のみならず、様々な場面でとても活かされていくのではないかと感じました。

働く場所や職責なども様々な立場のみなさんが参加してくれました。「そうそう！あるある！」と
少なからず同じような場面や境遇を経験したことがあったり、気持ちを共有しながら、同じグループに
なった方々との交流もできたのかな？と嬉しく思いました。

研修の冒頭に増井さんの自己紹介からすでに！引き込まれてしまっていたくらい、充実した研修になり
ました。参加・ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。

コーチング研修の様子

最初にコーチングの基本を皆で学び、2 グループに分かれてグループワークを行いました。

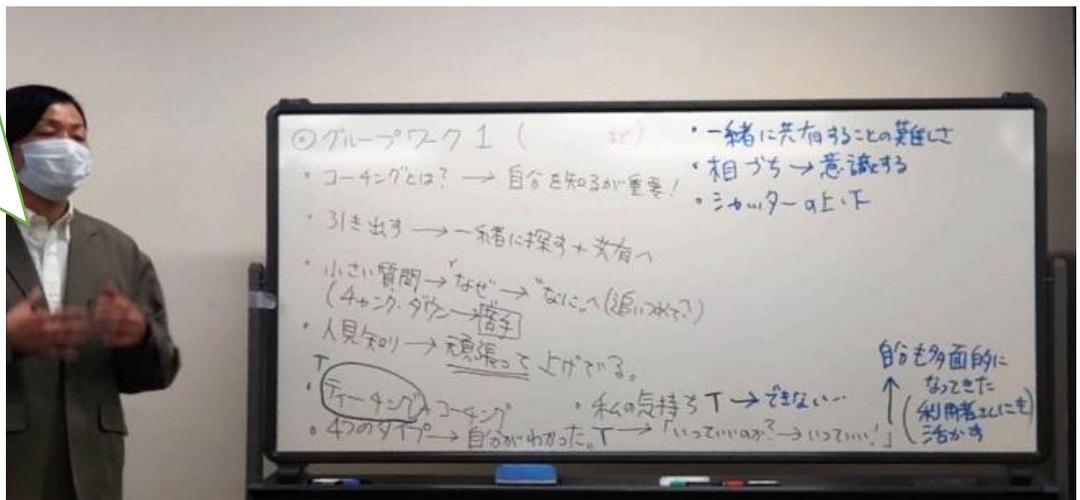


グループワークでは、グループ内で意見を話し合い、発表しました。

色々な方の意見を聞いて、大変勉強になり有意義な時間となりました。

グループ ワーク①

コーチング
スキル①～⑧
を聞いて自分
自身の発見や
気づきはあり
ましたか？



グループワーク②

講義の「コーチングスキル①～⑧」を実践しながら、コーチングを展開してみてください。
テーマ 「コントローラー・タイプのAさんが初めてインシデント(利用者さんの軽微な転倒事故)に携わりました。ケガは無かったもののAさんなりにショックを受けていて、近くにいた先輩Bさんの行動に納得していない様子もあったとの事です。」

